

神秘十字教会

2013 年 総括 9/30 創造日

第三証 【我が十字架】

神統（牧師・伝道師） 天池治彦

この世に神からの命で教会が誕生し、早や2年となった。宗教団体として、神秘十字教（軍）の宗派をこの世に伝道していくことが神の命である。それが地球人類一人一人の為、幸せになる源の神秘の世界。

この世の基督教徒には、神の十字架が背負っている。無宗教や他の宗教では考えられないことではあるが、基督教を信仰している信者は特に重要なシンボルが十字架である。

私も神によって創造され、この世に降臨している。そして命を御国に戻るまで行わなければならない。そして私にも神より十字架を与えられ、背負っている。

我が十字架とは何なのであろうか。他の人には分からない十字架。それを創造日であるので少し答えようと思い、ここに証する。

我が神によって与えられ背負っている十字架。それは、この世に我が子孫、即ち子供は創らないことである。子供を残さないこと、つまり遺伝子・子孫を残さないことを意味する。

子孫を残さないことが十字架。どんな命であるのか。下記がその理由である。

私は神と契約し、命により宗教団体を立ち上げ、牧師・伝道師となった。それは、聖職者として子供は不必要であること。そして、我が子に注ぐ情熱と子育てや愛情を他に使うことを意味する。それは、伝道であり、神を述べ伝えこの世の神秘を証することが絶対命令であり、契約しているからである。

聖書を読めば分かると思うが、神も子供は創っておらず、伝道し、布教と証をしている。それが源であるのだ。

更に言えば、我が子よりも児童養護施設・子供たちを援助したり、神学院にて意志を継ぐ者を育てることが大切。子供たちの幸せを広めることがこの世の役割であり、神秘の世界には必要である。

我が子を創り育てたとしたら、我が神の意志である聖と邪が分裂し、子は大聖者となるか、大邪心となるかのどちらかであることは、神から教えられている。我が子はこの世の聖もしくは邪として名を残すことは決められている。それを考慮すれば、この世の神秘の平安をもたらすためには我が身一つの採決で子は不必要である。

この世に与えられた我が精神・神の精神と肉体・遺伝子はこの世に残してはならない。それは、神の国の御国にそのまま戻らなければならない契約がある。また、御国から命があればこの世に再臨するからである。

我が祖先である戦国武将の西村治郎兵衛もこの世に子孫は残していない。遺児と正室を保護し、養育している。又、この世に名主として証し、加治田衆の一人として活躍している。加治田を守護し、一族の繁栄を築き、渡来系の一族（兄弟姉妹・親戚）を残している。そして、私は治郎の生まれ変わり、つまり再臨であると言えるであろう。

他にも理由は多くあるが、一番は神との契約である。その時から、この世に我が子は創らないと神に誓い、それは絶対であり、100%それ以上の神秘となっている。

私は子供を創らないが、兄弟や親戚が子供を残してくれているのでその系統がこの世の人間として繁栄してくれることに感謝したい。

子孫を残さない絶対的な方法は、避妊手術をすることである。それは遺伝子（精子）を夢精とすることにある。その方法も考慮している。

我が子を創らないことがこの世に与えられた我が十字架であり、神から他の命を与えられた責任。それを全うすることが我が使命なり。

※ただし、我が子は創らないが、子供を創らない結婚（基督教）の契約は別であり、同志とクリスチャンファームを共に歩める女性は別話でここでは述べない。

以上が我が十字架であることを再び神に誓い、創造日に証しておく。

アーメン。